

## 共同リポジトリ

森保, 信吾  
広島工業大学附属図書館

<http://hdl.handle.net/2324/18783>

---

出版情報 : DRF/Share地域ワークショップ(九州地区), 2010-12-22  
バージョン : accepted  
権利関係 :



# 共同リポジトリ

DRF/Share-Kyushu

森保信吾

# HARP公開秘話【勉強会】

- HARPとは…
- なぜかスタートしたHARP勉強会
  - 広島大学O女史の思惑
    - 平和学の主題リポジトリの方向性を探れないか…
- なぜか継続したHARP勉強会
  - 広島経済大学N氏の画策
    - 私大図協研究会での発表者を推薦しないと…
    - HARP勉強会がちょうど良い、広島工業大学のM氏に発表させよう…

# HARP公開秘話【役割分担】

- **プロデューサー**: 広島経済大学N氏
  - 大学間・県大図協の調整
- **脚本・監督**: 広島大学O女史・U氏
  - IR構築・運営の先生
- **メインキャスト**: プロジェクト参加者
  - みんな前向き・・・誰も止めるものはいない
- **主演女優**: 広島市立大学N請さん
  - HARPの優等生
- **技術スタッフ**: 広島工業大学M氏・広島大学U氏
  - 機関リポジトリシステムをテスト構築(M氏)
  - 運用については模索中(M氏)

# HARP公開秘話【不安】

- 会費を取るならどのくらいまで？
  - アンケートによると・・・年額3～4万円であれば参加館が見込めそう
- 共同構築なんて誰もやっていない・・・本当にうまくいくのか？・・・
  - 広島経済大学N氏、広島大学U氏の一言が決定付ける  
**「今しかない！」**
  - 楽観主義が大切かも
- 県大図協での承認が最難関
  - 県大図協からも経済的支援

# HARP公開までのToDoリスト

- 県大図協での承認・規約の作成
- 運営組織の設置
- 会費の徴収・積み立て
- システムの購入・設定
- 参加機関の募集
- コンテンツの収集と投入(必要な知識の取得)
- Niiへの登録

# なぜ共同リポジトリなのか

- 中小規模機関におけるIR導入の障壁
  - 人的な余裕ない
  - 構築のノウハウがない
  - 予算的な余裕がない（共同リポジトリプロジェクト報告書 2010.3）  
URL: <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/share/seika/ShaReReport.pdf>
- IR共同構築・運営のメリット
  - 構築費用が抑えられる
  - 技術・ノウハウを共有できる
- ➔ 中小規模機関IR導入の障壁を除去
- ➔ オープンアクセスの裾野拡大

# なぜ共同リポジトリなのか

- 共同リポジトリに参加して良かったと思う点
    - コストが安い(無料) 85 %
    - 導入が簡単 62 %
    - 業務のノウハウや知識の獲得が容易 52 %
    - 他機関との連携が深まった 52 %
  - 共同リポジトリに参加してよくなかった点
    - よくなかった点はない 72 %
    - カスタマイズが難しい 13 %
    - 自分のペースで作業することが難しい 9 %
- (共同リポジトリプロジェクト報告書 2010.3)



# IRの共同構築

- やる気はあるけど、予算・人員・ノウハウが少ない機関にとって、共同構築は大変魅力的な手法
- 今のところ、国立の大規模大学が関与しない共同IRはない
  - HARPでは広大は事務局・サーバ管理で関与
- 国立大学が関与しない(関与の低い)共同構築は無理か？・・・でも試した人もいない

# 共同リポジトリプロジェクト ShaRe

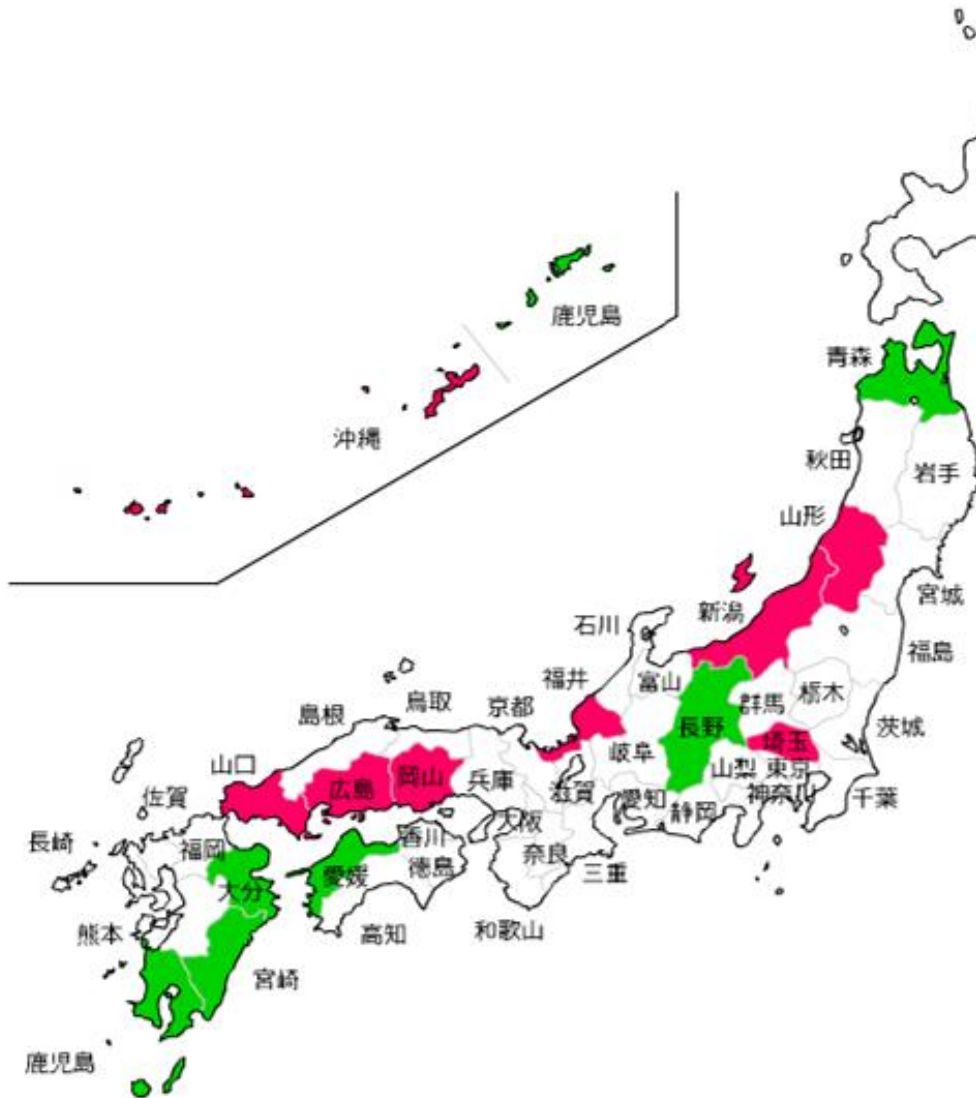
- 地域共同リポジトリを広く普及させることを目的
- 共同リポジトリのシステムと運用モデルの改善・構築
- 担当者育成支援

# 国内の機関リポジトリ

	機関総数	リポジトリ構築機関数	うち、共同リポジトリでの構築機関数 (ホスト機関は除く)	リポジトリ構築率	共同による実施率
国立大学	86	71		83%	0%
公立大学	92	15	8	16%	50%
私立大学	595	57	28	10%	57%
短期大学	406	10	10	2%	100%
高専	64	5	5	8%	100%
その他	-	9	6	-	60%

IRDBコンテンツ分析システム<http://irdb.nii.ac.jp/>より算出(参照:2010/11/25)

# 国内の共同リポジトリ(2010.8現在)



## ■ 運用中

山形(9)・埼玉(8)

新潟(15)・福井(10)

岡山(4)・広島(12)

山口(9)・沖縄(3)

—かっこ内: 共同への参加機関数

ホスト機関 ⇔ 参加機関

## ■ 構築中

弘前(青森)・長野・愛媛

大分・宮崎・鹿児島

# 共同リポジトリの色々（システム）

- システム構成
  - ひとつのIRシステムに同居するもの（共有型）
    - ゆうキャンパスリポジトリ、HARPほか
  - 仮想サーバの技術を利用し、1つのサーバ機上に複数のIRシステムを立ち上げるもの（独立型）
    - 岡山共同リポジトリ O-AIR
  - 共同リポジトリを想定して開発されたもの（独立型）
    - 山口県大学共同リポジトリ“維新”（EARMAS）
- ホスト機関のIRシステムとの関係
  - 別立て(広島など) ←……………→ 同居(山形など)
    - ホスト機関のブランドの維持

# 共同リポジトリの色々（運営）

- 運営母体
  - 大学コンソーシアム（山形）
  - 県大図協（新潟・広島・山口）
  - 地域内の中心的な国立大学（福井・岡山・沖縄）
  - 協議会とホスト機関の共同運営（埼玉）
- 経費
  - 外部資金・ホストの資金
  - 徴収（広島）

# 共同リポジトリの運営母体

- 既に存在する組織を母体
  - 組織的で継続的な運用体制につながる
- ホスト機関の単独運用
  - 既存の組織の枠を超えた活動が可能
    - 福井⇒福井県立図書館・福井県文書館が参加
    - 沖縄⇒県外の沖縄地域学関連の研究機関を含めることも検討中
- ホスト機関の役割
  - 電子化・登録も ← … → システム管理・サポート

# 共同リポジトリのホスト機関

(あくまでも主観です・・・)

- 父親型(山形?)
  - 地域の中心的立ち位置
- 姉御型(広島)
  - 世話好き・宴会好き(乗せられやすい)
  - がんばる参加機関をあおる姉御
- 兄貴型(新潟・信州?)
  - 俺について来い
- チャレンジャー型(岡山・沖縄?)
  - 主題リポジトリなど新しい取り組みに前向き

ホスト機関のキャラに大きく依存  
危うさ⇒規約づくりが重要



# オープンアクセスの裾野

自機関のリポジトリ運用だけでも大変だけど、



利用者の求める資料を提供するためには、  
オープンアクセスの拡大も重要



他機関であっても機関リポジトリの普及に貢献  
することは、自分の図書館の目的に合う

# 共同でも独自でも

- 機関リポジトリに携わる上で、近くにある顔の見えるコミュニティの存在は大変ありがたい
  - HARPの場合・・・ML・勉強会
- コミュニティーの活気が、モチベーションにつながる
- 機関リポジトリ・コミュニティの活動は図書館活動全体の活性化につながる